

令和5年8月25日

長泉町議会議長様

会 派 名 新風

会派代表者名 若林 徹 

会派調査研究・研修報告書

このことについて、下記のとおり会派調査研究・研修を実施したので、報告いたします。

記

調査研究・研修者氏名	若林 徹、米山 智、長野 晋治、安田 美津子、内田 幸英
調査研究・研修月日	令和5年7月26日(水)～令和5年7月28日(金)
調査研究・研修地及び事項	(1)目的地(富山県富山市) 日 時 令和5年7月26日(水)午後1時30分～午後2時30分 内 容 富山型デイサービスについて
	(2)目的地(石川県小松市) 日 時 令和5年7月27日(木)午前10時00分～午前11時30分 内 容 科学とひとづくりについて サイエンスヒルズ小松(現地視察)
	(3)目的地(石川県野々市市) 日 時 令和5年7月27(木)午後2時00分～午後3時30分 内 容 学びの杜ののいちカレードについて(現地視察)
調査研究・研修地内容等	別紙のとおり (1) 内容 (2) 現状 (3) 町行政との相違・留意点と、研修成果による提言 (4) 添付資料



(別紙 1)

■内容
富山型デイサービスは、従来の行政にはない民間の柔軟な発想に基づき誕生したサービス形態で、行政がこれをバックアップするというかたちで発展拡大した。
富山型デイサービスができた経緯は、平成 5 年に富山赤十字病院を退職した 3 人の看護師さんが開所したデイケアハウス「このゆびと一まれ」において、赤ち
ゃんからお年寄りまで、障がいのあるなしに関わらず受け入れたことから始まり
後に「富山型」と言われるようになった。特徴としては、小規模、多機能、地域
密着であり、一般住宅をベースとして、利用定員は 15 人程度までであり家庭的
な雰囲気が保たれ、高齢者、障がい者、障がい児、乳幼児など利用を限定せず、
誰でも受け入れ対応し、身近な住宅地の中に立地しており、地域との交流が多い
ことが特徴である。
開所当初は、国の制度では、老人福祉法、身体障がい者福祉法、などの
各法により、このサービスには、行政からの支援はなかった。
しかし、平成 12 年に介護保険制度が開始し、高齢者のデイサービス事業所とし
て指定をうけ平成 15 年には身体障がい者については介護保険制度の通所介護
事業所を利用した場合、従来からの支援制度の報酬が適用された。
デイサービスの仕組みは介護保険デイサービス定員 15 名に対して、高齢者 9 人
身体障がい者 1 人、知的障がい者 1 人、精神障がい者 1 人、障がい児 1 人乳幼児
2 人が基準該当事業所の登録申請である。
地域共生社会の実現に向け、全国に広がる「富山型地域共生福祉」の礎を築いた
と言えるだろう。

(別紙 2)

■町行政との相違点、留意点

長泉町は、若い子育て世代が多く、また移住者が多いことが特徴であり、富山市との背景には違いがある。近隣の市町に比べてもグループホームなどの小規模な施設はかなり少ないように感じる。伊豆の国市では車で少し走るだけで、デイサービスを受け入れている施設はあるが、当町ではこども園の方が多く見られる。富山型では、一般住宅をベースとして、地域密着が基本となり、地域との交流が少ない状況の当町とでは定着する、広がることは難しいのではないかと思います。県下で高齢化率も低い当町では子供の数が多くマンモス校もあり、国でも子育て政策に力を入れていく状況では、小規模、共生、地域密着などの高齢者の施設は見過ごししてしまいがちである。やはり町民の年齢層の違いにより、その町の施策の違いを強く感じた。しかし高齢者に対しても目を向けて小回りの利く小規模施設などにも行政として関わっていくことも重要だと考える。

(別紙 3)

■研修成果による町行政への提言

年月を経て、町民の年齢も上がり、状況は変化していくので、富山型デイサービスは必ず長泉町でも行政と連携を図り広がっていくことに期待している。

町内で開所希望者がいる場合には、高齢者だけのデイサービスだけではなく富山型デイサービスの選択肢があることを提案していただきたい。

視察報告

視察日 令和5年7月27日

視察先 石川県小松市 サイエンスヒルズ小松

研修テーマ 科学とひとづくりの取組について

会派 新風

長野 晋治

1. 内容

当館は2014年3月に小松製作所小松工場の跡地に設けられた施設である。

小松市の総事業費は34億円余り。松本零士氏が名誉館長。

コンセプトはものづくり精神の継承と科学技術の啓発。

主な施設として、立体視型3Dシアター、ワンダーランド体験型展示ゾーン、宇宙ステーション(JAXA 宇宙センターから譲り受け)、フューチャーラボものづくり体験、ミラクルラボ科学実験等で構成されている。

体験教室やイベントは年間900ほど行われ、講師には地元金沢工業大学、公立小松大学、北陸先端科学技術大学院の他に東大、奈良学園、JAXA、小松村田製作所、北陸電力、また、地元高校生や東大LEGO部が担当する等多岐に渡っている。

まさに今後日本がめざすべきSTEAM教育そのものをじっせんしていると感じた。

館内は生き生きとした目の子どもたちであふれ、親子での来館も多く、自分たちもわくわく感一杯であった。

2. 研修成果による町行政への提言

現代のこどもたちに必要なのは遊び感覚でものづくりや科学に触れること。

教育的なプロジェクトとして、科学、ものづくりに体験型の施設が是非欲しいところ。

しかしながら、当町一町で小松市の科学館と同規模の施設を作ることは難しく、県東部地区として近隣市町や県と連携し、将来的にめざすSTEAM教育の拠点として創造的な施設の創設を提言する。

(資料別紙)

(別紙1)

■内容 学びの杜 ののいちカレードについて
野々市市は東洋経済発表『都市データパック』2023年版、安心度・利便度・快適度・富裕度の4分野20指標で全国の市と特別区(一部除外あり)住み良さランキングで総合1位を獲得しております。金沢市のベッドタウンとして60年以上人口増加中、市内には3つの大学を有し、市民の平均年齢が41.68歳と若くて活気のある市です。
まだ元気なうちに、未来に向けてやるべきことをやる＝先手を打ち、公民連携PFI方式の採用で「学びの杜ののいちカレード」と「にぎわいの里ののいちカミーノ」の両施設を面的に整備した。光輝くにぎわいの拠点として、市民が楽しむ場所(本を保管する場所ではない)図書館と市民学習機能を融合させた「学びの杜ののいちカレード」25万冊を収容できる日本初の本の塔(ブックタワー)があり、野々市市のランドマーク的な施設で図書館部分、レファレンスカウンターやキッズコーナーやカフェ併設などの様々な工夫がなされておりました。キッチンスタジオ、創作スタジオ、音楽スタジオ、市民展示室なども設けられており、学びの杜にふさわしい生涯学習施設で屋外の緑の広場(芝生広場)にてマルシェ・イベントの定期的開催も行なっているとのこと。旧図書館と比べて施設の利用者数は増加し、野々市市民(約5割)だけでなく、隣接する金沢市(約4割)からの利用者も多く、交流人口や関係人口の増加により市のにぎわいづくりに寄与する。新たな付加価値として開館時間の延長(午後10時まで)、電子書籍の貸し出し、ICT技術の活用によるサービスの向上、電子新聞サイネージなど、民間事業者の提案により、直営時代にはできなかったチャレンジができた。過去に新図書館を考えるフォーラムを開催、新しい騒がしい図書館か、昔ながらの成熟した図書館が良いかパネルディスカッションを行った経緯あり。
「学びの杜ののいちカレード」第40回石川建築賞にて【優秀賞】受賞。

(別紙2)

■町行政との相違点、留意点
野々市市人口＝54047 人(令和 5 年 6 月末)
長泉町人口＝43454 人(令和 5 年 6 月末)
野々市市面積＝13.56k m ² (東西 4.5 k m ² ・南北 6.7k m ²)
長泉町面積＝26.63k m ² (東西 3.5 k m ² ・南北 12k m ²)
野々市市内に 3 つの大学があるため、20 歳前後の人口が突出して多い。
長泉町内には大学がないため、20 歳前後の人口が突出して少ない。
野々市市＝都市基盤整備の進展により、大型店をはじめ、新たな商業施設の進出が進む一方で、既存の商店や企業、従業員数は減少傾向にある。
長泉町＝飲食料品小売業を中心とした小規模な店舗が大半を占め、近年のモータリゼーションの進展や消費者ニーズの多様化、近隣市町や町内における郊外型大型店の相次ぐ進出などにより、商業を取り巻く環境は大きく変化した。(工業主体の町)
野々市市＝人口 5 万人を超え、2011 年 11 月 11 日に石川郡野々市町が市制を施行し野々市市が誕生した。(平成 14 年に 金沢市長と野々市町長との合併会談が行われたが、単独町制を選択した。)
長泉町＝人口 4 万 3 千人台で推移している、昭和 30 年代に三島市との合併が一度決定したが破談した(現在のところ、健全性等を理由に当面は合併や市政予定はない)
野々市市＝平均年齢 41.5 歳(令和 2 年国勢調査)
長泉町＝平均年齢 43.7 歳(令和 2 年国勢調査)
野々市市＝東洋経済『都市データパック』発表、住み良さランキング 2023 総合 1 位。
長泉町＝大東建託株式会社の居住満足度調査「いい部屋ネット 街の住みこちランキング 2023<静岡県版>」「いい部屋ネット 住みたい街ランキング 1 位。
野々市市＝基準地価平均、平成 27 年～令和 4 年まで上昇中(8 万 1035 円/m ² 26 万 7886 円/坪)
長泉町＝基準地価平均、平成 22 年～令和 4 年まで上昇中(12 万 5285 円/m ² 41 万 4167 円/坪)
野々市市＝財政力指数 0.83、長泉町＝財政力指数 1.14 (令和 4 年度)
野々市市と長泉町は様々な分野で非常に良く似た町と市である。

(別紙3)

■研修成果による町行政への提言

1991年10月コミュニティーながいずみ1階へ移転開館した長泉町民図書館、建設当時は画期的で斬新な建物施設だと感じたが。他市町の比較的新しく建設された図書館と比べると、外観や内装を含め多少の古臭さや不便さや暗さを感じる。間口が狭く奥に長い建物構造のため、町営駐車場や文化財展示会館、2階芝生テラス広場などが人目に付き難く導線が分かり辛い。観光交流協会も駅前ロータリーの路面より離れているため、町外の方や観光客の方は場所が分からないようなので。案内看板設置や更なる各施設(場所)の周知が必要だと感じる。(大型デジタルサイネージ)

野々市市図書館は22時まで開館、当町の図書館もコミュニティーながいずみの閉館時間に合わせた21時30分までの延長を検討していただきたい。(図書館18時閉館)

学びの杜ののいちカレード施設は、広い芝生広場の中心に配置された「公園のような図書館」をコンセプトとしており。フリーWi-Fiを完備し誰でも気軽に立ち寄り、緑の中でゆっくりと憩える市民の活動拠点となっている。(25万冊収容のブックタワーが設置されていたが、全国的に見ると本の無い図書館や図書館カウンターを導入している自治体もある)

芝生広場は野々市市民の憩いの場として、自由に交流できるスペースであり。お祭り等の各種イベントを開催することができ、芸術や文化の発信を行っている。当町の駅前広場は図書館があることにより音の制限があり騒がしいようなイベントの開催は不可だが、騒音に関しての規制を緩和する考えはないか。またコミュニティーながいずみ芝生広場は2階に設置されているため、デッドスペースとなり少々管理が不足していると感じる。雨や熱中症対策でベンチに日除けを設置したりするなど、目立たない2階の芝生広場へ行きたくなるような仕組みづくりとさらなる芝生広場の有効活用や休憩所機能等の充実を。(広場機能を充実させた図書館)

学びの杜ののいちカレードはカフェが併設、開館当初は「カフェ ぶどうの木 ののいちカレード店」が入店していたが。コロナ禍の影響を受け退店、現在は「カフェ 9 Nava (ナヴァ)」が入店している。当町の図書館もカフェ設置要望が多いが、下土狩駅近接の立地好条件を活かした大手人気カフェの誘致を。(スタバ・コメダ等)

学びの杜ののいちカレードは野々市市民利用(約5割)だけでなく、隣接する金沢市民(約4割)の利用者も多く。交流人口や関係人口の増加により、野々市市の発展やひとづくりに寄与している。当町のコミュニティーながいずみにおいても新たな付加価値を加え、他市町からの来町者の増化を目指し。交流人口や関係人口の増加により、下土狩駅前の活性化や御殿場線利活用の推進。指定管理者制度、民間委託など官民連携により長泉町のさらなる発展やひとづくりに取り組むべきと提言する。

(別紙4)

■添付書類

